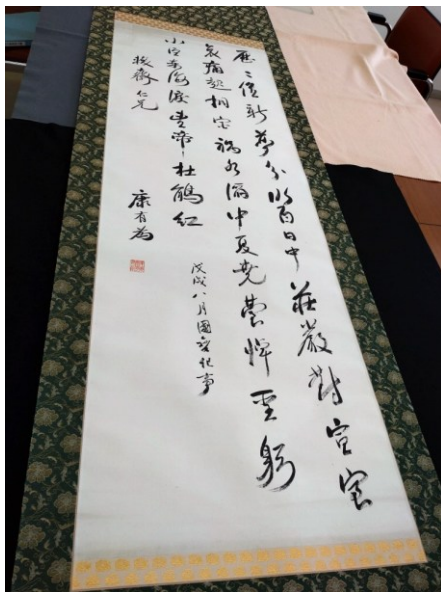


【亡命中国人】

須永文庫研究⑮で須永が韓国・朝鮮だけでなくドイツにも関心を持っていたことについて触れましたが、須永文庫の目録を眺めていると亡命中国人の名前があることにも気づきます。

1898年の戊戌政変で日本に逃れてきた康有為と梁啓超です。今回は康有為筆と伝えられている五言古詩を紹介します。



釈文を掲げます。

歴々維？新夢

分明百日中

莊嚴對宣室

哀痛起桐宮

禍水滔中夏

堯臺悼聖躬

小臣東海淚

望帝杜鵑紅 戊戌八月国変記事

輓齋 仁兄 康有為 印

首聯「維新」の「維」が人偏に見えるので、別の字かも知れませんが、ひとまず

「維新」として読み下してみます。

歴々たる 維新の夢

分明たり 百日中

莊嚴 宣室に対し

哀痛 桐宮に起く

禍水 中夏にはびこり

堯臺 聖躬を悼む

小臣 東海の涙

望帝 杜鵑紅

戊戌八月 国変の記事

輓齋仁兄 康有為 印（南海康印有為）

【西太后らを諷諭？】

清朝末期の1898年、中国でも日本の明治維新にならった政治改革が試みられました。光緒帝の支持を得た康有為、譚嗣同、梁啓超らが立憲君主政体の確立を目指しましたが、保守派の西太后らがクーデターを起こして改革は失敗。光緒帝は幽閉され、譚嗣同は処刑、康有為と梁啓超は日本に亡命しました。

この運動は百日ほどで挫折したため「百日維新」などと言われます。高校の世界史の教科書にも出て来るのでご存知の方が多いでしょう。当時、一連の経緯は日本の新聞でも連日報道され、金玉均や朴泳孝を思い浮かべた日本人も多かったでしょう。

大修館書店の『大漢和辞典 修訂第二版』などを参考に語句を解説します。

頤聯の「宣室」は殷の宮殿の名で、一説には獄をいうそうです。

「桐宮」は湯王の陵墓のある桐の地の宮室で、光緒帝が幽閉された場所のようです。

頸聯の「禍水」は漢室を滅ぼすものをいい、後、転じて一般に女性の喩に用いました。

尾聯の「望帝」はホトトギス、杜鵑の異名です。蜀王杜宇は望帝と号し、後、化

して杜鵑となったといえます。

これらの語句は、清の宮廷や西太后、光緒帝のことなどを暗にたとえているものとみられます。

竹内実編著『岩波漢詩紀行辞典』（岩波書店、2006）はこの尾聯を「ちっぽけな臣下であるわたしは、亡命した日本（東海）にあって涙をながしている。ふるさとをしのんで鳴くほととぎすのように、紅いまごころはわたしにもあるのだ」と訳しています。

一連の出来事が起きたのは戊戌の年の1898年9月ですが、旧暦で八月だったため落款で「八月」となっています。

印にある「南海」は、広東省南海出身康有為の号の一つです。

釈文は康有為の詩を集めた『康南海先生詩文集 康南海先生詩集 卷之四 明夷閣詩集』（文海出版社）、語句等は入谷仙介・福本雅一・松村昂『中国文明選 第九卷 近世詩集』（朝日新聞社、1971）、濱久雄「文人としての康有為—その詩文と書について—」『東洋研究』第122号、1996）も参考にしました。

【箱根で着想か】

弟子の梁啓超によると、康有為が箱根に遊んだ時に「戊戌国変紀（ママ）事」四首が出来ました。（『新民叢報 第19号』1902年10月31日）

また、『康有為先生年譜』によると、康有為は日本亡命後、箱根の塔ノ沢温泉の

環翠楼に泊るなどしました。

「塔ノ沢温泉 元湯 環翠楼」のホームページ(www.kansuiro.co.jp)によると、日清戦争後の講和条約を結ぶために来日した李鴻章がここに宿泊し、孫文は日本亡命時に定宿としていたということです。

須永がどのようなつてで康有為と会ったのかは分かりませんが、犬養毅や頭山満らが康有為の支援者だったので、その関係からかも知れません。

【日本語版】

博物館日記にも出ていましたが、『国外韓国文化遺産叢書 22 日本 佐野市郷土博物館所蔵 韓国文化遺産』の日本語版が出ることになったそうですね。待ち遠しいですが、ハングル版に目を通して思ったのは、日本語版は校閲も含め、時間がかかるだろうと感じました。大変ですが期待しています。

2026 年 1 月 31 日 広沢有久

2026 年 2 月 2 日 衍字があったので修正しました。

須永文庫資料研究室のアドレスは <https://sano-haku.com/sunaga-bunko/>